

擬態語動詞「さっぱりする」「すっきりする」の意味に関する考察

陳 帥

1. はじめに

「さっぱり」と「すっきり」は、オノマトペと位置づけられ¹⁾、「擬態語＋スル」の形式が擬態語動詞として注目されてきた。本稿では類義関係にある擬態語動詞「さっぱりする」と「すっきりする」を考察対象とする。宮地(1978)では、「ト」を伴う「トスル型」は実質動詞の場合との区別が明確にできるわけではないが、「スル」を伴う全体として(文)節相当に機能すると指摘している。本稿は、「さっぱりする」「すっきりする」の意味を分析する際に、「擬態語＋スル」を1語とし、「擬態語＋トスル」の形も含めて考察する。

まず、両語が類義関係にあることは、以下の(1)と(2)の「さっぱりする」と「すっきりする」が、文全体の意味を大きく変えることなく、入れ替え可能であることから明らかである。

- (1) 汗ばむ夏。ザブンと大きなお風呂に入って、身も心もさっぱり(すっきり)し²⁾たい。(中日新聞2003.08.18)
- (2) 理容師二十二人がお年寄り約百人の髪を丁寧に整えた。お年寄りたちは「髪がすっきり(さっぱり)して気持ちいい」とうれしそうだった。

(中日新聞2009.03.14)

しかし、以下の(3)では、「すっきりした」を「さっぱりした」にすると、容認度³⁾

が落ちると思われる。

- (3) 新都心の玄関口であるのを配慮、すぐ隣の新宿モード学園やペDESTリアン・デッキと色調などを統一、すっきり(さっぱり)した景観をつくり出した。(毎日新聞1990.10.29)

両語の違いは何であろうか。本稿は、擬態語動詞としての「さっぱりする」「すっきりする」⁴⁾を多義語⁵⁾と捉え、複数の意味をそれぞれ記述したうえで、意味上の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1 擬態語動詞について

影山(2005)は、「擬態語＋スル」全体の意味構造は通常の動詞の語彙概念構造と実質的に同じになると主張している。

西尾(1981)は、金田一(1950)に始まる動詞の4分類を参考にし、「擬態語＋スル」動詞について、アスペクトの観点から4グループを取り出しているが、この方法では、「さっぱりする」「すっきりする」は、どのグループにも入れ難い。鷲見(1996)は、金田一の考え方を基本とし、西尾(1981)の問題点を指摘し、再分類した。「さっぱりする」「すっきりする」を、ともに「<動作性><変化><非性質表現化>動詞」と分類し、感覚・心理的な変化を表し、タ形で発話時の心

の状態を表すことができるとしている。「さっぱりする→さっぱりした→さっぱりしている」という時間的順序がはっきりしており、「だんだんすっきりしてくる」とも「すっきりした瞬間」ともいえ、変化が徐々に起こる場合にも瞬間的に起こる場合にも考えられると指摘している。

鷺見(1996)の統語的特徴の分析によると、両語はアスペクト的観点からはまったく同じ振る舞いである。しかし、両語には、意味上の差異が存在する。したがって、鷺見(1996)の行った統語的特徴による分析のみからは説明できない。本稿では、意味の観点から、両語の違いを明確にしたい。

2.2 「さっぱりする」「すっきりする」の意味記述の問題点

擬態語動詞としての「さっぱりする」と「すっきりする」の意味を分析した先行研究は、管見の限り見当たらないが、複数の国語辞典、類語辞典、擬音語・擬態語辞典⁶⁾における両語の記述には参考にすべき点も多い。しかし、いずれも両語の個別の意味と相互の意味の共通点・相違点の記述が十分とはいえない。その問題点として以下の4点が挙げられる。

①両語の意味が互いに言い換えることにより記述されており、共通点は示されているが、相違点を明らかにしていない。

②感覚を表す意味において、どのような感覚を表すのか不明瞭である。本稿で後述するように、両語とも五感すべてを表せる⁷⁾。

③両語の各意味の関連性を記述できていない。

④両語の意味記述に「余分なもの/むだなもの/余計なものがない」といった記述が見受けられるが、それらがどのようなものであるか不明瞭である。

以上をみると、「さっぱりする」と「すっきりする」が置き換えられる場合において、意味上の差異について厳密に触れているものはない。また、両語の意味記述には、「余分なものがない」という重要な意味要素に対する捉え方を明確にする必要があると考えられる。

3. 分析

本稿では、先行研究に基づき、分析していくが、分析に入る前に、以下のような現象を確認しておく。

まず、「さっぱりする」「すっきりする」両語とも「部屋をきれいに片づけてさっぱり(すっきり)した」のように、状態変化を表す動詞であるが、「さっぱりした味」「すっきりした香り」のような連体修飾用法では、状態変化ではなく、性質を表す。また、(4)では、「余分と感じられるもの」は、元々存在せず、「余分な飾りがなくなる」という状態の変化はない。

(4) 豊岡市長賞には豊岡高校1年、橋本允聖さんの「熱中症対策Bag」が選ばれた。(中略)「いろいろと飾らないさっぱり(すっきり)したデザインがすがすがしい」との評を受けた。

(朝日新聞2012.09.22)

これは、「実際には状態の変化が起こらなかったが、変化の結果として認知される」という「痕跡的認知」⁸⁾であると考えられる。したがって、本稿では、これらのような例も考察の対象とする。

次に、本稿でも、「余分なものがない」

という意味要素に注目するが、「余分」と感じられるかどうかは、そもそも人によって異なり、個人差があると思われる。「余分」というのは、対象が持っている性質ではなく、人が対象に対して持っている主観的な評価である。つまり、ある人にとってある場面では好ましいものであっても、ある人にとってある場面では「余分」と感じられる可能性がある。その判断の一致しやすさは、対象によって異なる。「ゴミ」のような物は、多くの人にとって「余分」と感じられ、その判断は共有されやすいものである。一方で、「味」や「音楽」などの物は、好みの差が大きく、共有されにくい。本稿は、このような前提を踏まえ分析していく。

3.1 「さっぱりする」

本節では、「さっぱりする」に3つの意味を認め、次のように記述する。以下、例文に基づき説明する。

3.1.1 意味1 <五感で捉える対象に> <余分と感じられるものがなくなる>

まず、視覚を表す例を取り上げる。

- (5) 長靴、軍手姿のじゃおクラブのメンバー十数人が大カマを振るうと雑草だらけだった庭が、みるみるうちにさっぱりしていった。

(中日新聞1999.12.04)

(5) では、目の前の庭の状態が、「さっぱりしていった」と表現されている。元々雑草だらけの庭が「さっぱりしていった」のは、「雑草を取り除いた」ためである。「雑草」は、視覚で捉える視界に障害となるものであり、多くの人にとって共有されやすい「余分と感じられるもの」であると捉えられる。

次に、触覚を表す例を取り上げる。

- (6) 汗ばんだ体をさっぱりするためには、もう1カ所、地元で人気のスポット「スパ」に立ち寄ろう。

(毎日新聞2002.06.20)

(6) では、「さっぱりする」ために、「スパ」に行くとしている。「スパ」では、「汗ばんだ体」の「汗」などが取り除かれる。したがって、「汗」のようなべとべとと感じるものは、人に不快感をもたらすものであり、多くの人にとってないほうがよい「余分と感じられるもの」である。

次に、味覚を表す例を取り上げる。

- (7) サバは脂が乗ってくる秋が旬。ショウガでよく臭みを消して、しょうゆで煮るとみそ煮よりさっぱりする。

(中日新聞2007.10.06)

(7) では、「サバの味」が「しょうゆで煮る」ことによって「さっぱりする」と表されている。「さっぱりする」といえるのは、「みそ煮」と比べているためである。つまり「みそ煮の甘さや味の濃さ」などが「余分」と感じられる。「サバのみそ煮」全体の評価をしているわけではなく、「甘さや味の濃さ」などが「余分」と感じられるかどうか、元々個人差があるが、この例では、「みそ煮」の「甘さや味の濃さ」などがなくなることが好ましいと捉えられている。

次に、嗅覚を表す例を取り上げる。

- (8) 香の歴史が示す通り、日本人も香りには敏感で繊細な民族だが、欧米とは違って、シンプルでさっぱりした、自然の香りが好まれきた。

(毎日新聞1993.01.12)

(8) では、「さっぱりした」によって、香りが持っている性質を表しているが、

「さっぱりした香り」は、日本人にとっては、「シンプル」で「自然」の香りであり、好ましいものである。そのような嗜好においては、「刺激」や「人工的な香料」などは、好ましくない「余分と感じられるもの」である。それらは、人や場合においては好ましく感じられることもあるものであるが、この例では、それらが「余分」と感じられているといえる。

最後に、聴覚を表す例を取り上げる。

- (9) 夏の暑い日に、風鈴のさっぱりした涼しげな音を聞いて気持ちも落ち着いた。

(9) では、風鈴の涼しげな音が「さっぱりした」によって表現されている。「複数の音の重なり」や「過剰な音量」などがない音が涼しさを感じさせる。「複数の音の重なり」や「過剰な音量」などは、人や場合においては、好ましく感じられることもあるものであるが、「さっぱりした」と表現されていることで、それらが「余分」と感じられることがわかる。

- 3.1.2 意味2 <不快に感じさせるものがないこと>によって<気持ちがよくなる>

- (10) 部屋に入るやいなや、シャワーを浴びた。シャワーを浴び終わってさっぱりした気持ちになった。

(BCCWJ)

(10) の「さっぱりした気持ち」になるのは、「シャワーを浴びた」ためであると考えられる。更にいえば、シャワーを浴びて汗など不快に感じさせるものがない、「肌の感触がいい」ことによって「気持ちがさっぱりする」と考えられる。「触覚」の場合だけではなく、「味覚」「視覚」「嗅覚」などで捉える「状態変化」も「気持ち

ちがよくなる」動機づけになる。さらには、「余分と感じられるもの」が、はっきりしない(11)のような例もある。

- (11) 心配事はあるけど、集まって話をすると少しさっぱりする。

(朝日新聞2012.03.03)

(11) では、心配事について話をすると、「気持ちがさっぱりする」が、「心配事はあるけど」ということから、心配事は解消していないことがわかる。しかし、「心配事を吐き出す」ことによって、気持ちが軽くなるといえることから、何らかのものがなくなったり、減ったりすると捉えられている。

以上の分析を踏まえると、意味1の「五感で捉える対象に余分と感じられるものがない」ことによって、意味2の「気持ちがよくなる」ことが引き起こされるといえる。意味1から意味2へとメトニミ的拡張をしたと考えるのが自然であろう⁹⁾。意味1の方は、「五感で捉える状態」なので、身体性が高く、認知されやすい、つまり具体性が高いため、「概念的・中心性」を持つと考えられる。更に、意味1は、「機能的中心性」を持つため、本稿は、暫定的に意味1をプロトタイプの意味とする¹⁰⁾。

- 3.1.3 意味3 (一テイル・一タの形に限られ) <人間の性格に><余分と感じられるものがない>

- (12) 母が言うには、もともとは細かいことは気にせず、さっぱりした性格だったようなのですが、最近は何かにつけて理屈っぽく面倒くさい性格になってしまったのだそうです。

(朝日新聞2011.11.05)

- (12) によると、「細かいことを気にす

る」「理屈っぽい」「面倒くさい」性格は、「さっぱりした性格」と対立関係にあるとわかる。「人間の性格」というと、優しさであっても「おせっかい」「くどい」と思う人がいるように、ある性質の価値評価は、人によって異なる。ここでは、「理屈っぽい」「面倒くさい」などは、多くの人にとってあまり好ましくない「余分と感じられるもの」であると考えられる。意味1の方が「五感で捉える状態」なので、身体性が高く、認知されやすく、つまり具体性が高いといえ、意味1から意味3の抽象性が高い性格へとメタファー的拡張をしたと考えられる。

以上、「さっぱりする」の3つの意味を確認した。

3.2 「すっきりする」

本節では、「すっきりする」に3つの意味を認め、次のように記述する。以下、例文に基づき説明する。

3.2.1 意味1 <余分と感じられるものがなくなり><気持ちが整う>

(13) 最初のごちゃごちゃしていて、考える暇がなかった。迷った部分もあったが3連休がいい休養になって、気持ちの整理がついた。決まってすっきりした。(BCCWJ)

(13) では、「ごちゃごちゃしていて考える暇がなかった」状態は、思考がはつきりしていない乱雑な状態であり、気分的に憂鬱な状態であると思われる。「すっきりした」のは、「気持ちの整理がついた」つまり、気分を憂鬱にさせる乱雑な状態が整理され、「余分」と感じられる「迷い」などがなくなったためである。

3.2.2 意味2 <余分と感じられるものが

なくなり><五感で捉える対象の状態が整う>

まず、視覚を表す例を取り上げる。

(14) 道路を横断していた電線を地中化し、景観をすっきりさせた。

(毎日新聞1996.03.14)

(14) では、「電線を地中化する」ということから、「地中化」することによって、視覚で捉える物理的状態は、「電線がなくなって整った」状態である。ここでは、「電線」が、視野や景観にとって障害となるものである。ある人や場合においては、好ましく感じられることもあるものであるが、多くの人にとって、ないほうがいい「余分と感じられるもの」である。

次に、味覚を表す例を取り上げる。

(15) オエノグループの福徳長酒類(東京)は、爽やかな香りの焼酎「博多の華 すっきり麦」を28日に発売する。発酵の際に生じる雑味を取り除き、すっきりした味わいの麦焼酎に仕上げたという。

(毎日新聞2013.11.27)

(15) は、「麦焼酎の味」について述べているが、「雑味を取り除く」ということから、「麦焼酎の味」は、雑味がなく整った純粋であると思われる。味に対する人の好みには大きい差があるが、「商品の売り」となっていることから、「純粋な味」が好ましいと考えられている。「雑味を取り除く」というのは、「余分と感じられるものをなくす」ということである。

次に、触覚を表す例を取り上げる。

(16) オイルクレンジングでメイクや毛穴汚れを落とし、肌がすっきりする。

(16) では、「メイク」や「毛穴汚れ」は、肌に悪影響を与え、美容の観点から取り

除いたほうがいいものである。したがって、「メーク」や「毛穴汚れ」を落とすことは、「余分と感じられるものをなくす」ことである。「余分なものがない肌の状態」が整ったといえる。

次に、嗅覚を表す例を取り上げる。

- (17) パラとリングは甘くてフルーティな香り、ハーブは空気を清浄にするすっきりとした香り…どちらもストレスをやわらげて気持ちを落ち着かせてくれる。(BCCWJ)

(17) では、「空気を清浄にするハーブの香り」は、「すっきりした香り」としている。「空気を清浄する」ということから、「空気中の汚れや変なにおい」などをなくし、「空気の状態」が整ったといえる。「空気中の汚れや変なにおい」などは、多くの人にとって共有されやすいほうがいいものであり、「余分と感じられるもの」であると捉えられている。

最後に、聴覚を表す例を取り上げる。

- (18) あまりギリギリまで大きくした状態だとマスタリング時の音作りのコントロール幅が小さくなり、良い結果が得られない事があります。(中略)ですが、多くの場合、その低音域はバッサリとカットしてしまった方がモコモコ感が減り、すっきりした音作りが可能になります。

(<http://www.loudaudio.jp/gm.html>)

(18) では、「低音域はバッサリとカットする」ことによって、「モコモコ感が減る」ことがわかる。「音」に対する人の好みも異なるが、この例では、「低音域によって引き起こされたモコモコ感」は、多くの人にとって「余分と感じられるもの」だと捉えられ、そういったものがな

ければ、「音の状態」が整い、「すっきりした音」だといえる。

以上の分析を踏まえ、「すっきりする」の意味2は、「さっぱりする」の意味1と同様に、「五感で捉えられる対象の状態」であり、身体性が高く、認知されやすい「概念的中心性」を持つ。しかし、「すっきりする」の「機能的中心性」は、「さっぱりする」と異なっている。つまり、「すっきりする」の2つの中心性は一致していない。「すっきりする」の意味1は、話者が最初に思いつく意味であり、その語の使用例として最初に口をついて出る意味であると考えられるため、「機能的中心性」を持っている。本稿は、母語話者の判断と実例の使用を重視し、暫定的に「機能的中心性」を持つ意味1がプロトタイプの意味であると認定する¹¹⁾。

3.2.3 意味3 <余分と感じられるものがなくて>物事の全体が整う>

- (19) 欧州の債務危機はなお、すっきりとした収束は見通せない状況にある。

(毎日新聞2013.06.25)

(19) の「すっきりとした収束」は、完全に解決した状態だと思われるが、完全に解決したというのは、そのことに関する不備や問題などがない状態であると考えられる。「不備や問題」などは、一般的に残ったままでは好ましくない「余分と感じられるもの」だと捉えられる。「完全に解決した状態」は、そのことに関するすべてが「整っている」と考えられる。意味2の方が「五感で捉える状態」なので、身体性が高く、認知されやすい、つまり具体性が高いといえ、意味2から意味3の「抽象性が高い物事の状態」へとメタファー的拡張をしたと考えられる。

以上、「すっきりする」の3つの意味を確認した。

4. 類義語分析

3節では、「さっぱりする」「すっきりする」の共通点と相違点を明らかにするための前提とする多義語分析を行った。それにより、「さっぱりする」の意味1と「すっきりする」の意味2が類義関係にあり、「さっぱりする」の意味2と「すっきりする」の意味1が類義関係にあることがわかった。以下、例に基づき両語の共通点と相違点を明確にする。

4.1 共通点

(20) 古いものを捨てて、部屋がさっぱり (すっきり) した。

(20) は、「さっぱりする」の意味1と「すっきりする」の意味2における「余分と感じられるものがなくなって視覚で捉える部屋の状態」を表している。

(21) お風呂に入って気持ちがすっきり (さっぱり) した。

(21) は、「さっぱりする」の意味2と「すっきりする」の意味1における「余分なものがなくなって気持ちがよくなる」ことを表している。

(22) 銭湯で汗を流して、さっぱり (すっきり) して帰ると膳拵えが出来ていた。(BCCWJ)

更に、(22) のような例では「肌がさっぱり (すっきり) する」とも「気持ちがさっぱり (すっきり) する」とも考えられ、文脈によって、感覚か心理状態のどちらを表すかが曖昧な場合にも、置き換えが可能である。

以上、両語とも五感で捉えられる状態

とそれによって引き起こされた心理的状态の変化を表すことができる。つまり、「五感で捉える対象の状態」とそれによって引き起こされる「心理状態の変化」が同時に発生しており、どちらに焦点を絞るかによって、「五感で捉える対象の状態」あるいは「心理状態」のどちらかの意味が成り立つと考えられる。

4.2 相違点

両語の相違点は以下の通りである。

①「余分なものがいないという状態」の捉え方の違い

(23) 雑草だらけだった庭が、みるみるうちにさっぱりしていった。(同(6))

(24) 新都心の玄関口であるのを配慮、すぐ隣の新宿モード学園やペDESTリアン・デッキと色調などを統一、すっきりした景観をつくり出した。(同(3))

(23) では、「雑草」など「余分と感じられるもの」を「取り除く」ことが重要であるが、(24) では、「余分と感じられるもの」を「取り除く」わけではなく、ただ「色調などを統一」することによって、「全体が整う」ことを目指している。

また、以下の(25)(26)が挙げられる。

(25) 道具持参で訪れた中山さんたちは、お年寄りたちに「どんな髪形にしましょうか」「夏なので短くしましょう」などと声をかけながら、約20人の頭髪をさっぱりさせた。

(毎日新聞2007.08.14)

(26) 企業や高校で、社員や生徒に「昼寝」をさせているところがあると聞く。午後の眠気を解消し、頭をすっきりさせ、仕事や学業に集中してもらう

のが狙いらしい。

(毎日新聞2011.03.12)

(25)の「頭髪をさっぱりさせた」というのは、「余分な頭髪を切って短くした」と考えられるのに対し、(26)の「頭をすっきりさせる」というのは、「頭の中の眠気のようなものをなくすかあるいは整理するか」と考えられる。

両語の「余分なものがないという状態」に対する捉え方は以下の通りである。

「さっぱりする」：「余分なものを取り除かれた後の状態」として捉える(取り除くことが重要である)。

「すっきりする」：「整っている状態」として捉える。(必ずしも取り除く必要がなく、整うことが重要である)。

②プロトタイプの違い

「さっぱりする」と「すっきりする」両語とも「五感で捉える対象の状態」と「その五感で捉える対象の状態によって引き起こされた心理状態」を表すが、「さっぱりする」は、(27)で使われる意味(感覚)が「概念的中心性」と「機能的中心性」両方を持つプロトタイプであり、「すっきりする」は、(28)で使われる意味(心理状態)が「機能的中心性」を持つプロトタイプである。

(27) カミサンは時々串団子を買ってくるときがあり、このあんこも甘過ぎずさっぱりした味がしておいしい。

(BCCWJ)

(28) 渡米ビザをもらえれば、永住権取得はほぼ確実。6カ月のうちに準備を終えて、すっきりした気持ちで新天地へ飛び込もう。(BCCWJ)

(27)は、単に「飲食物の味」つまり「味覚」を表している。無論、味覚のみだけ

ではなく、五感の中の感覚いずれも表すことができる。(28)は、単に「気持ち」を表している。また、「五感で捉える状態によって引き起こされた気持ち」を表すことができる。

③両語が類義関係にならない意味

(29)「山形生まれの江戸っ子」って喜われてたぐらい竹を割ったようなさっぱりしている人だね。(BCCWJ)

(30) 日本経済新聞は以前の内容よりすっきりした感じですからこんな感じで良いと感じます。(BCCWJ)

(29)の「さっぱりしている」は、「人の性格」を表すのに対し、(30)は、「物事の内容」を表す。この2つの例における両語の意味が、類義関係にならない。

5. まとめ

本稿では、擬態語動詞「さっぱりする」と「すっきりする」の意味について、それぞれ多義語分析を行い、意味の記述をしたうえで、その共通点と相違点を示した。「さっぱりする」と「すっきりする」の違いは、われわれが有する経験を基盤とした捉え方の違いである。「余分なもの」をどのように捉えるかという「捉え方」によって意味が異なるという考え方に基づけば、先行研究で残された課題をある程度解決できると考える。

まず、話者や知覚者が「余分なもの」に対する捉え方であるが、「余分」と感じられるかどうかは、個人差があると考えられる。「余分」というのは、対象が持っている性質ではなく、人が対象に対して行う主観的な評価である。その判断の一致しやすさは、対象によって異なる。

また、「余分なものがない」という状態

の捉え方であるが、両語とも「余分なものがない状態」を表すが、「さっぱりする」が、「余分なものが取り除かれた後の状態」に焦点を当てているのに対し、「すっきりする」が、必ずしも「余分なものを取り除く」必要がなく、「全体が整っている状態」に焦点を当てている。無論、両立する場合もあり、両立しない場合もある。

本稿は、以上のように、意味の観点から両語の共通点と相違点を検討したが、多義語の分析では、両語の暫定的に認定したプロトタイプの意味に関して、さらなる使用実態や心理的側面の検討する必要がある、今後の課題としたい。

注

- 1) オノマトペ、擬音語・擬態語を認定する基準は、研究者により見解が異なるが、浅野(1978)、飛田・浅田(2002)など数多くのオノマトペ辞典において、「さっぱり」「すっきり」が掲載されていることから判断した。
- 2) 事例中の考察対象「さっぱりする」「すっきりする」には下線を施し、比較対象を()に示した。事例の出典元は例文の後ろの()に示し、出典が記されていないものはすべて作例である。
- 3) 文の成立の可否は、日本語母語話者8名による容認度調査の結果を参考にした。判定者は、22歳から33歳までの男性3名、女性5名、愛知県、宮城県、東京都、岐阜県、三重県出身の文科系大学院に在籍している大学院生である。
- 4) 本稿は、擬態語動詞としての「さっぱりする」「すっきりする」を考察対象とするため、「きれいさっぱりだ」「さっぱりわからない」「すっきり落ちる」などの意味・用法を考察対象から外す。
- 5) 多義語の定義は国広(1982:97)に従う。すなわち、「多義語」とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つ二つ以上の意味が結び付いている語を言う。
- 6) 本稿で参照したのは、『大辞林』(第三版)(2006)、『現代擬音語擬態語用法辞典』(2002)、『類語辞典』(講談社)(2008)である。
- 7) ただし、それぞれの感覚において容認度の異なりはある。
- 8) 「痕跡的認知」とは、人間が物の形や位置関係を実際にはおこらなかった変化の結果として認知することである。「痕跡的認知」による表現には、状態の変化や位置の移動などを表す動詞によるものが多く見られる。(国広:1998)
- 9) 多義語分析の方法は、靫山(2002)に従い行ったが、意味拡張の詳細については、別稿陳(印刷中)を参照されたい。
- 10) 松本(2009)は、中心的意味には「概念的中心性」と「機能的中心性」の2つの中心性があり、この両方を併せ持った意味が、典型的な中心的意味であると主張し、両者が一致しない場合もあることを指摘している。概念的中心性を持つ意味とは、「派生の元をたどっていったときに、最終的に行き当たる意味」(p.90)であり、機能的中心性を持つ意味とは、「中立的な文脈である語を聞いたときに話者が最初に思いつく意味であり、その語の使用例として最初に口をついてでる意味」(p.92)である。
- 11) 「すっきりする」のプロトタイプの意味を認定するにあたり、母語話者に本稿が認定した意味1と意味2について、

どちらが最初に想起されるのかを聞くテストを行った。その結果、「すっきりする」の最初に想起される意味は、意味1である。また、筆者の収集した実例の限りでも、「すっきりする」の意味1の使用頻度が高い。したがって、母語話者の判断と収集した実例によって、本稿は、「すっきりする」の意味1を暫定的にプロトタイプの意味であると認定する。

参考文献

- 浅野鶴子編、金田一春彦解説 (1978)『擬音語・擬態語辞典』角川書店。
- 今井新悟 (2011)『日本語多義語学習辞典—形容詞・形容動詞編』アルク。
- 影山太郎 (2005)「擬態語動詞の語彙概念構造」『第2回中日理論言語学研究会ハンドアウト pp.1-9。
- 金田一春彦 (1985)「国語動詞の一分類」金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 pp.7-26。
- 国広哲弥 (1982)『意味論の方法』大修書店。
- 国広哲弥 (1998)『理想の国語辞典』大修館書店。
- 鷺見幸美 (1996)「〔擬音語・擬態語＋する〕動詞の分類」『名古屋大学人文科学研究』25名古屋大学大学院文学研究科 pp.97-120。
- 陳 帥 (印刷中)「感覚・心理を表すオノマトペの多義性とその動機づけに関する考察」『日本認知言語学会論文集』14 日本認知言語学会
- 西尾寅弥 (1981)「〔(擬音語・擬態語＋する)の形式について』『語学と文化』20 pp.83-96。
- 飛田良文・浅田秀子 (2002)『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版。
- 松本曜 (2009)「多義語における中心的意味とその典型性：概念的 center と機能的中心性」*Sophia Linguistic* 57 pp.89-99. SophiaLinguisticInstituteFor International Communication.
- 松村明 (2006)『大辞林』三省堂。
- 宮地裕 (1978)「擬音語・擬態語の形態論小考」『国語学』115 pp.33-39 国語学会
- 榊山洋介 (2002)『認知意味論のしくみ』研究社。

例文出典

Yahoo! 検索

朝日新聞・毎日新聞・中日新聞記事データベース

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)

付記

本稿は、第184回名古屋例会（平成25年11月6日）における口頭発表「擬態語動詞「さっぱりする」「すっきりする」の意味分析—「感覚」「心理」の捉え方をめぐって—」に加筆修正したものである。

（名古屋大学大学院生）